

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26 年 9 月 2 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470204359		
法人名	有限会社 誠友		
事業所名	グループホーム「ふぁみり〜大宮」		
所在地	〒733-0007 広島市西区大宮3丁目1番18号 (電話) 082-509-0882		
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470204359-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成26年8月26日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

・民家を活用したグループホームは、施設らしさを感じさせず、家で暮らしているという感覚で生活して頂けます。食事はスタッフの手作りで味噌汁の匂いで目覚め、食事作りの包丁の音や匂いで、1日の時間の流れを目と鼻で感じとれることができます。リビングにはいつも誰かがいて笑い声が聞こえてくる家庭的なホームです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

民家を改造したグループホームであり、施設のような雰囲気を感じない雰囲気となっている。風通しや外の光がよく入り、地域との関係も良好で、近隣から通う職員も多く、地域の中に溶け込んだ施設運営ができています。職員同士の意思疎通も良好で、職員からの改善提案により施設の運営も日々向上している。また、居室は広く清潔感もあり、利用者からの細かな要望にも応えられるように申し送りの工夫もされている。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	自分達で作り出した理念で入所者のみなさんが笑顔でホームでの毎日を送って頂けるよう生きた理念を実践している。	職員の手によって作られた経営理念があり、入所者が笑顔でホームでの毎日を送れるよう、毎日ミーティングを重ねて実践している。月に1回本部職員との意見交換会を行い、日頃のホームの状況を話し合い、理念のすりあわせを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事にあまり積極的ではないものの町内会長様や民生委員さんから情報を頂き参加している。	町内会にも加入し、地域のお祭りがあれば入所者も車いすで参加し、秋祭りにはお神輿にも来てもらうなど地域行事にも参加できている。日頃から近所も散歩する機会を設け、近隣の子どもたちへの声かけ、公園で知り合った近所の方からお花をもらうなど、近隣との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今後、グループホームの大きな課題だと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	町内会長さんからの地域の情報を頂くことで、ホームのサービスに取り入れたり見直したりしている。会議に利用者様やご家族の参加は今後の大きな課題で御家族への働きかけにもう少し力を入れるべきだと思っている。	運営推進会議は概ね2月に1回開催され、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員の継続的な参加を得ており、参加者から施設内の設備についての改善提案がなされるなど、運営やサービス向上にうまく結び付け活かしている。本年度から運営推進会議に初めて家族の参加がかなうこととなった。	運営推進会議は外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容やサービスの実態に対する意見を頂き具体的にサービスの向上に活かしていくための会議で、当事者である家族や利用者自身の参加が不可欠です。家族の継続的な参加を通じ、家族からの意見を積極的に受け入れ、さらに良い運営に結びつけるよう改善することを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活課の担当者の訪問時にそれぞれの問題に対し、相談し、意見を頂いている。	所管する区の生活課に定期的に報告できているほか、高齢福祉課とも連携し、対応困難なケースにも共同して対応することができた。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	民家を利用しているホームなので普通の家の玄関であり施錠できない分、鈴をつけたりと工夫している。また、年一回身体拘束についての研修をスタッフ間で行っている。	管理者が身体拘束に関する研修を受け、職員に周知している。倫理規定により職員に身体拘束しないことを周知し、職員個別の研修も行っている。現在、身体拘束を行っているケースはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修でスタッフに虐待の理解と防止について徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設内研修で年一回権利擁護に関する研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前、入居時に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や要望があった場合、早急に対応している。苦情が出た場合、ただちに話し合いをし、改善している。	家族の面会時に施設だよりを渡すなどし話題をつくり、家族からの運営に対する意見を求めるようにしている。採光の具合など利用者からの細かな要望にもこたえるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のミーティングには事業本部担当者も参加し運営に関する意見や提案を引き出し、ホームの車の納車などなされている。スタッフ間では毎日の申し送りや、申し送りノートにて決定、統一を図っている。	すぐに改善すべきことは管理者が随時聞き取りを行い、意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。月1回のミーティングにおいて職員の意見を反映し、脱衣室の椅子や自動車の購入等、よりよい運営に結び付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者やスタッフの就業環境に配慮して下さり、夜勤手当の増額、希望休の受入れ、スタッフの充実、飲み会などやりがいの持てる環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験年数にあわせて研修に参加してもらい、ケアに対する意識の向上、またスタッフの質の向上を目的として取り入れている。ミーティングにて報告し、全員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	情報交換する程度のグループホームはあるものの、スタッフの交流までには至っていない。今後考えていきたいと思っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コミュニケーションを重ね、入所者の方が安心して生活できるようプラン作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前、入居時に話を伺い、プランに取り入れ、安心して任せて頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に本人と家族より話を伺い、一番必要としている支援を納得していただける形でプランに組み込む。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その方のできることをそれまでの生活歴から引き出し、暮らしの中で活かせるように支えていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ホームでの出来事を「大宮だより」や来所時にお話し、話題の共有、また昔の入所者の方の様子や生活ぶりを伺ってホームでの暮らしに反映できることを取り入れている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入所前のご近所さんやご友人の面会など今まで通り変わらず支援していく。うちの庭で咲いた花なのよ、スイカ半分おすそ分けと、家族のようによくして頂ける関係を継続していけるよう支援に努める。	入所時にアセスメントをしっかりと行うほか、継続的に聞き取りを行い、職員の申し送りノートに細かく記載している。その結果、入所前に住んでいた家に行ってみるなど個別のかかわりができ、なじみの関係が継続できるように工夫されている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	花を活けるとみんなが1人ひとり見に行って活けた本人に感想を言ったり、テーブル拭き、床拭きも声掛けしあってお互いにできることをしつつも、それぞれが個々を認め協力し支えあって生活している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホームで亡くなられた方のご家族より、紹介のお電話を頂いたり、入所時、全く交流のなかったご家族の方から、生前の母を知りたいと遠方よりたずねて来られたケースもありました。当時を知るスタッフが対応。今後も必要に応じて、相談や支援の努めていく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	体の不調、他者への暴言があった方が家族と一緒に病院受診したことで、昔やっていたお花を活けることを生活の中に取り入れたところ訴えや暴言が落ち着いた。またお誕生日には本人の希望をかなえる日にして外食や買い物に出かけている。	回転寿司店への外食やショッピングセンターへの外出など、一人ひとりの希望をかなえるための取り組みがなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人より聞き取りをしこれまでの暮らししてきたことを今の暮らしの中で少しでも自分らしさが出せるよう支援する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	床拭きのできる方、テーブル拭き、食器洗い、調理の下ごしらえなど1人1人のできる力を発揮できるところで発揮してもらえるよう、その日の状態を観察しタイミングをみながら声掛けしている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	各担当者が月々のモニタリングを行い、アセスメントにも関わってケアプラン作成に取り組んでいる。	職員の日々の申し送りにより、本人の思いや意向を取り入れ、介護計画に反映できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の生活記録への記入はもちろんのこと管理日誌にも記入しており、交替勤務で出てきたときには必ず管理日誌には目を通して業務に当たる。スタッフ間で情報交換し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	外出、外泊など自由にできるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	春には三滝の公園で花見、また新庄でこいのぼりを見に行ったりと地元を楽しみを求め出かけて暮らしの中に豊かさを取り入れていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	認知症の症状から不安になりがちだった方の御家族の協力を得て、提携医に2日に渡って受診、納得いくまで検査をして頂く。事前に提携医には連絡を取っておき、協力して頂く。状況の変化に応じて対応していく。	入居時にかかりつけ医を確認し、本人の自由意志でかかりつけ医を選択してもらっている。施設の協力医は緊急時には往診があり、歯科医師の往診も月1回定期的にある。入居者が不穏になった時でも協力医への根回しにより落ち着くなど、適切な連携ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	受診の際、協力医、看護師に相談、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には情報交換しできるだけ支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化しつつある時点で、終末期も視野に入れ、家族と連携医との話し合いと確認、スタッフ間で方針に従いチームで支援していく。	施設での看取りの実績がある。協力医も看取りに協力的であり、介護職も含めたチームで看取りを行える体制ができている。終末期における意思の確認を行い、病状の進行に合わせて随時意向の確認を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修において急変や事故発生時についての意識統一をし、連絡網の活用を周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	町内会長さんにも協力をお願いしている。避難訓練（夜間を想定したもの）消火訓練も行っている。	年に2回避難訓練を行い、そのうち1回は夜間想定訓練を行っている。消防署も含めて計画を作成し、スタッフ間の連絡網も完備している。消防直通の非常電話も設置している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	本人の気持ちや性格等、充分把握し言葉かけにも常にプライバシーをふまえたうえで対応している。	管理者がリーダー研修などを通じて言葉かけの工夫を職員に指導している。トイレ誘導等の声かけの際には、小声で言うなどのプライバシーに配慮した介助が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ホームに車が来てからは、外出の希望があればできるだけかなえられるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴以外はご自身の過ごしたいようにされている。食事とその時間に起きられない場合には時間を遅らせることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご自身の着たいものを着て頂く。また選んで頂く。時には着物を着られる方もいます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節を食事から感じられるよう心がけている。時々外食や宅配で気分を変えてみたりしている。調理の下ごしらえや片付けもできる方をお願いをして楽しみの1つとして工夫している。	日頃から手作りの食事を提供し、季節行事の際には行事食を作っている。利用者の好みに合わせて味の濃淡を調整しおいしく食べられるように工夫したり、時には外食で趣向を変えるなどの工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量は毎食確認している。水分摂取量についても一人ひとり夜間もきちんと把握し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人ずつ見守りの中，口腔ケアを行っている。また地元の歯科の先生が往診して下さり，義歯の調整、修理、治療、口腔指導などお願いしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄の自立に向けた支援は継続で行っていく。失敗してもプライバシーを尊重しながら次の成功へ導けるような声掛けを行っていく。	3名の入所者が自室内にポータブルトイレを設置しているが，日中はトイレでの排泄ができています。排泄記録をつけることで排便等がおこりそうな時間を把握し，入居者のしぐさで排便を感知しトイレ誘導している。その結果，排便の失敗はなくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便記録を毎日記入している。麦ごはんにしたり，牛乳の多く使う飲料をティータイムにお出しするなどして自力での排便に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は週3回3人と4人に分けて入ってもらっている。夕方の入浴はまだ検討中である。	個別介助で午後に入浴を行っている。入りたくないという利用者には，声かけをおこない納得してもらって入ってもらっている。熱い湯が好みであったりする場合には，順番を工夫するなど個別の対応ができています。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	空調管理をし快適に休めるよう にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	医療ノートに服薬の変更があっ た場合必ず記入し、スタッフ全 員に周知する。また薬について 不明なことは調剤薬局の方に 確認している。きちんと确实に 内服できたか確認する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	お花、うた、パズル、縫い物な どホーム内で楽しめることを一 人ひとりにあった楽しみごとを 見出し出してしてもらっている。 またお誕生日には外食や買い物 など好きなことをする1日とし ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	車が来てから、常々行ってみた かった買い物（服屋など）や外 食に出かけている。今後も希望 にそえるよう支援していく。	施設の車を使用し外食や買い物 ができるようにしている。散歩 も随時対応で行うようにし、近 所の公園にも行っている。地域 行事に参加するための外出も行 われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金 を所持したり使えるように支 援している。	金銭の預りはしていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間は自由に使用。入所者様間で合う方や合わない方もありその時々でスタッフが声掛けや誘導して混乱をまねかないように心配りする。	共有空間には、利用者が生けた季節感のあるお花や、利用者が作った風鈴、日頃のホームの様子を撮影した写真などがあり、居心地の良い空間を作っている。施設内は外の風も良く通り、外の光も多く入る等採光も工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの配置やテーブル席の位置に工夫をし、共用空間の中でも一人の居場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自身が使用していたタンスや仏壇を持って来ておられ居心地良く暮らせるよう配慮している。	入居前に使用していた使い慣れた家具などを持ち込み、居心地良く過ごせる空間になっている。採光もよく風通しもよい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの状態に応じて「できること」はしてもらい、「わかりにくい」ことを「わかること」になるようネームプレートをつけたりと小さな自立から大きな自立と個別に安全な環境で暮らしてもらえるよう工夫している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム「ふぁみり〜大宮

作成日 平成26年9月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に利用者様やご家族の参加が大きな課題で、ご家族への働きかけにもう少し力を入れるべきである。	今年度、第2回は、ご家族の参加がかない、第3回目より利用者様の参加も実施、今後継続していく。	利用者様には、順次参加して頂くよう話をし、承諾を得ている。ご家族様には会議への出席へのアンケートをとってみる。	4ヶ月から6ヶ月程度
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。